

1) 開会（事務局）
2) 挨拶（安藤地域産業担当部長）
3) 座長選出 ※宗岡委員を座長として選出
4) ①環境情報協議会の設立経緯について（事務局） ②田園環境整備マスタープランについて 概要：事務局 各町：根室市、別海町、標津町（標津町は事務局代理説明） ③情報提供（事務局） ※過去協議地区（草地事業）の整備後の牧草収穫状況動画を提供予定だったが、データ破損のため口答説明 ④計画策定地区の説明及び意見交換等 ※下記、議事録のとおり

■根室東部地区について説明（説明者：農村振興課青木係長、資料P20～P24）
<input type="checkbox"/> 除草剤散布に係る情報提供について ○宗岡委員 過去までの説明経過（農家に対し情報提供した上で、使用は各農家の判断に委ねる）と、今回説明を受けた内容（農家に対し情報提供した上で、適正散布量となる様に指導）に齟齬がある。 あくまでも散布を前提としたものではなく、情報を与えた上で使用は各農家の判断に委ねるとする形で協議会として折衝案を取りまとめているはず。 ○青木係長 過去の議事内容等を再確認の上、事業実施時の各農家への説明対応を適切に進めていく。
<input type="checkbox"/> 整備ほ場の位置について確認 ○外山委員 トーサムポロ沼や各湖沼等に近いところにはタンチョウ等が常にいることが想定されるので、近接する整備予定圃場については時期的な配慮等を丁寧に行ってほしい。 ○青木係長 関係期間との協議時に、指摘事項を留意して協議を進めていく。
<input type="checkbox"/> 希少生物が生息している可能性が高い場合の対応について確認 ○滝本委員 説明資料内で「希少生物が生息している可能性が高い場合、影響を極力抑制する方法を模索」とあるが、具体的な方法はどのようなものか。 ○青木係長 根室管内で多いのは鳥類関係が一般的であり、鳥類の営巣が確認された場合は営巣時期を回避し

て工事を進めることが一般的な対策方法と考えている。

それ以上の配慮が必要となる場合、具体的な対策を示すことは難しいが、その事象に合わせた対策を取っていく必要があると考えている。

○宗岡委員

地元農家からも望まれている事業だと思われるので、今示された鳥類等への対応は、工事時期等の留意事項に配慮した上で進めていただきたい。

■別海東第2地区について（説明者：農村振興課青木係長、資料P25～P28）

河川や湖沼に面する場所について確認

○外山委員

河川や湖沼に近い圃場が多いと思うが、どの様に対応しているか。

○青木係長

河川付近については、緩衝帯として最低20mを確保している。河川幅によりもっと距離を取る場合もある。

○滝本委員

風連湖、西別川と関係しているが、両方ともこれくらい確保するのか。

○青木係長

最低限、その範囲は避けて事業を実施することとしている。

河川や湖沼に面する場所について確認

○宗岡委員

薬剤散布等、水系近くでは配慮が必要と思います。他に鳥類等で問題になりそうなものは。

○外山委員

湖沼、湿原近くはタンチョウのほか、付近の防風林にオジロワシの生息地があることが多いが、この地区では草地造成がないので、そこまで気にしなくても良いと思われる。

○宗岡委員

薬剤散布については、工事側では対応しないことと、農家引渡し時に配慮する様に伝えることをお願いする。合わせて鳥類の生息に配慮して事業を進めていただきたい。

■別海西第2地区について（説明者：農村振興課青木係長、資料P29～P34）

環境配慮について

○外山委員

薬剤散布や鳥類等については、別海東第2地区と同様に配慮しながら進めていただきたい。

■歯舞地区について（説明者：農村振興課青木係長、資料P35～P40）

□路線近傍の高層湿原について

○外山委員

工事路線の近くには高層湿原があるが、緩衝帯的に農地があるので影響はあまりないと思うが、位置的にはどのような形になっているか。

○青木係長

工事は既存の道路の中で進める形で、農地の色付けは受益範囲ということで直接工事する範囲にはなっていません。

□添付図面について

○滝本委員

計画路線と河川横断の2つ同じような図面があるが、内容的に別の意味があるのか。

○青木係長

1つにまとめても良かったが、河川横断箇所を示すためにもう1枚図面を作成しているだけで、それ以上の意味はない。

□道路排水整備による湿原への影響について

○宗岡委員

高層湿原が道路の東側にある中で、道路整備に伴い排水を再整備したとしても、地下水位が低下して湿原の機能が失われるというような影響は極めて小さいと思うが。

○外山委員

周りの草地より道路の方が高い位置にあるので、道路排水が影響を与えることはないと思う。

○宗岡委員（まとめ）

位置関係を含めて、野生動物への配慮や水系に係る工事時期など、配慮しながら進めてほしい。地域も期待している農道整備だと思うので、可能な限り早く整備が進むよう期待する。

■共春南地区について（説明者：農村振興課青木係長、資料P41～P45）

□環境配慮について

○宗岡委員

既存の道路幅が4m程度のところで6mの道路が整備されることは、現在の排水部分まで幅が広がり、農地側の買収等があり得ると思われる。また、起点から少し曲がっていることや両側に林帯もあり、一部伐採も可能性がある箇所で水系が横断しており、どのように環境配慮すべきか。

○外山委員

河川は水の流れが止まっている感じで魚が遡上するような場所ではないので、土砂流出への配慮と、可能な限り林帯を保持し、合わせて鳥類に関連して工事時期に配慮しながら進めてほしい。

○宗岡委員

外山委員の意見も踏まえて工事を進めていただくほか、仮に林帯をすべて伐採した場合の吹雪対

策等、市町村での維持管理への影響も頭に置いて進めてほしい。

標準断面図について

○宗岡委員

標準断面図は、先程の歯舞地区と一緒にの断面と考えてよいか。

○青木係長

基本的には一緒だが、地域によって全体の置換厚は変わってくる。

○宗岡委員

地域で変わる可能性もあるので、地区としてどういう形か示してもらえると良かった。

酪農家の目線でいくと、せっかく作った農道の強度が不十分ですぐ凸凹になるとかはもったいないと思うが。

○今井委員

集乳車両も12トンと大きく、隣接する農家も結構大規模なので、場合によっては2往復とかすることもあり、強度はしっかりしていた方がいい。

○宗岡委員

走行車両も含めて、路盤構造として強度が本当に大丈夫か、確認をお願いする。

○宗岡委員（まとめ）

現況の道路幅員が狭く、林帯やその間にある水系の横断などがあり、鳥類が飛来しやすい環境でもあるので、工事時期や土砂流出に留意することと、林帯をできるだけ残すような線形に配慮すること、維持管理的に吹雪により通行できないということのないように意識してほしい。

また、大型の集乳車の走行頻度が多いことも想定されるので、路盤構造の確認に留意してほしい。

■別海第1地区について（説明者：農村振興課青木係長、資料P46～P52）

集落道整備について

○宗岡委員

延長も短く、集落内の一部での整備になるが、留意点はあるか。

○外山委員

既存の道路も幅が十分あるので、周りに若干ある林帯も含めて、工事時期に留意しながら進めてほしい。

○宗岡委員（まとめ）

施設内の機器更新も含めて環境への配慮については一般的な事項に留意しながら進めてほしい。

■新上風連地区について（説明者：農村振興課藪中主査（代理）、資料P53～P56）

□現地写真の確認について

○宗岡委員

起伏修正も工事するが、暗渠排水が必要なものになっているのか。

○藪中主査

工種整理の関係で明示していないが、状況的には暗渠排水による対応が必要となってくる。

□環境配慮について

○外山委員

河川沿いについては、他の草地整備事業と同じような起伏修正で対応してもらうような形で、鳥類に関しても配慮しながら進める形になると思う。

○宗岡委員

圃場が河川の上流域付近などに多いと思うので、薬剤散布については、工事側では対応しないことと、農家引渡し時に配慮する様に伝えることを願います。

地域的には平坦な地形だと思うが、河川沿いのところは少し窪んでいるか。

○藪中主査

圃場内で河川側に向かうところは少し下がっていくとは思いますが、全体的には平坦部が多い地域になっている。

○滝本委員

西別川など河川付近での工事があるので、さけ・ます稚魚の放流時期に配慮することも一つ加えてもらえると良い。

□地図作成について

○今井委員

地図に道路が入っているとイメージがしやすいが、作り方によっては場所がわかりづらい場合がある。

○宗岡委員

水系が表示されていると環境情報協議会として非常にありがたいが、主要道路なども重ねて作成してもらうことで、より位置情報がつかみやすいと思うので、検討願いたい。

○宗岡委員（まとめ）

河川沿いの工事が多くあることから、鳥類への配慮と合わせて、魚類資源が遡上する時期への配慮と、農家へ引渡し際の配慮をお願いします。

■知床川北地区について（説明者：農村振興課藪中主査（代理）、資料P57～P65）

□環境配慮について

○外山委員

河川上流部沿いということもあり取水域が結構ある中での起伏修正がかなりあるので、さけ・ま

すに相当配慮しながら進めてほしい。

○滝本委員

標津川はさけ・ますの資源となる卵の8割ぐらいを根室管内1市4町へ配給している重要な河川なので、特に配慮してほしい。

○宗岡委員

同じ一次産業である漁協者側の意見も聞きながら、スクラムを組んで進めていけるような体制づくりを進めてほしい。

○外山委員

過去には漁業関係者も委員になっていたこともあるので、特に上流部については漁業側との情報共有をしていただければと思う。

○宗岡委員（まとめ）

先の地区と同様に、河川沿いの工事が多くあることから、鳥類や魚類資源が遡上する時期への配慮と、農家へ引渡す際の配慮をお願いします。

□公社営事業、2地区を通じたまとめ

○宗岡委員

河川付近でのさけ・ますへの配慮等、漁業側と手を組みながら進めていけるような対応を検討してほしい。合わせて、薬剤散布についても農家へ引渡す際に現状と留意事項を重ねて伝えてほしい。

○外山委員

河川への配慮について、標津の場合はサーモン科学館の館長が配慮方法などに詳しいので、アドバイスをいただきに行くことも良いと思う。

○滝本委員

標津町では農業と漁業との連携協議会があり、発足以降、情報共有のために毎年実施している。その中でもこの協議会での項目を取り入れることで農業者側も意識しながらやっている事を示してもらえると良いと思う。

日本遺産に指定される水域もあるので、その辺も含めて意識高く持っていただければと思う。

○宗岡委員

サーモン科学館など、さまざまな関係先にも情報提供しながらいろいろと教えてもらい、農業側にも理解をしてもらえるように進めてほしい。

■今回の会議を通じた全体のまとめ等

□各委員より協議会全体を通じた意見について

○外山委員

環境への負荷や魚類への影響など、留意しながら進めてほしいことと、薬剤関係の伝え方について今一度整理しながら的確に伝わるようにしてほしい。

湿原側への緩衝帯になっているのが実は農地だというのは多いので、農地側でも環境に配慮しながら進めているということが続けてほしい。

○滝本委員

異常気象災害が頻発していることを考えると、自然環境を中心に河川・動物・鳥類・野生植物のほか、別な角度から河川や傾斜地の災害なども意識しながら、この協議会で議論・提言して必要があると思う。

○宗岡委員

近年よく聞く、ゲリラ豪雨や線状降水帯など、予期しない雨の降り方で災害も起こりうるため、災害対応による自然環境や動植物、魚類への影響もいろいろ出てきて、大変な状況かと思う。

○今井委員

今回初めて委員として関わらせていただき、すごく勉強になった。

今年の夏は暑く、繁殖は8月に限ればほぼ全滅という状況で、余韻もまだ続くと思う。また、乳房炎やサルモネラなどの感染症も出てきていて、畜舎にエアコンをつけたりするなどの追加費用も検討している。肥料や餌代の高騰と合わせて、経営への影響は大きいと感じている。

農道整備など、輸送に係る整備が一番やってほしい整備だと考えている。

○山下委員

委員の皆さんや現場の意見も聞いて、改めて考えさせられる部分もたくさんあると感じた。

感染症のワクチンに関しては、厚さとかに関係なく、頭数は毎年減ってきてはいるが、また増えていくのかという不安はある。

地域としては、漁業関係者にも入ってもらうことも必要ではないかと思う。

○宗岡委員

農業と漁業だけではなく、こういう場に一般の方も巻き込んで、広く議論したうえで一次産業が同じ方向に向いて進んでいってほしいと考えている。

関係者各位で先入観だけではなく、新たな視点で動き出すことも必要と感じる。

根室管内で農業農村整備事業が環境への配慮を行うには、漁業との議論などを積極的に行って味方につけていくようなことも必要と考える。

以上、事務局に進行を戻し閉会